

四万十川の橋

四万十川に架かる橋のほとんどは、水面近くの低い位置に架けられており、自動車一台が通れる幅しかありません。橋には欄干がなく、毎年の夏の洪水に耐えられるよう設計されています。洪水の際、水と流木は、ほとんど抵抗を受けることなく橋の上を流れていきます。これらの橋は沈下橋と呼ばれ、九州で最初に建設されましたが、西日本の他の村落部にも見られます。最高水位以上の高さの現代的な鋼鉄製の橋に架け替えられたものもありますが、沈下橋は四万十川の象徴であり続けており、風景の一部として保存されています。

コミュニティをつなぐ

196 キロメートルの四万十川には、47 の沈下橋が架かっています。これらの橋は、シンプルなコンクリート製で橋脚は低く、工費を比較的抑えられます。その多くは、川の両側の村々をつなぐために、1930 年代から 1950 年代にかけて地域コミュニティの男女によって建設されました。

これらの橋は、今も川沿いのコミュニティの不可欠な一部分です。沈下橋の上に立つと、遮るもののない四万十川の眺めと、橋脚近くの浅瀬に仕掛けられたウナギやエビ用の罟が見られます。カヤック、カヌー、屋形船が橋の下を行き交います。

岩間沈下橋

この地域で最も有名な橋の 1 つは、岩間沈下橋です。白い小石で覆われた三日月型の川原を前景に、大きく蛇行する川を横切る橋の眺めは、観光ポスターで使われることが多く、テレビの CM に使われることもあります。この橋は、地域最大の町である中村から北西に約 30 キロメートルの場所にあります。自動車やバスで行くことができます。

佐田沈下橋

この橋は、291.6 メートルの最も長い沈下橋で、四万十川が太平洋に到達する中村の町に最も近い橋です。町の中心部から約 6 キロメートルの場所にあり、自転車で簡単に行けます。自転車は中村駅で借りられます。

中村の赤橋

四万十川に架かる橋は、低く架けられた沈下橋だけではありません。四万十川橋は、四万十川に架かる長さ 500 メートルの 2 車線の鉄橋で、中村の中心部につながっています。この八連の赤いトラス橋は赤鉄橋と呼ばれ、中村の有名な名所となっています。この橋が建設される以前は船で川を渡っていましたが、

頻繁に発生する洪水のため、川を渡るのは危険でした。1918年には、地元の生徒を乗せた船が転覆し、11名が亡くなりました。この事故の後、橋の建設が始まったのです。